

学校だより

やさしい子 たくましい子 考える子

7月号



黒門

発行日 令和4年7月1日

発行者 台東区立黒門小学校

校長 石田 隆

「うれしい」も「いや」も人それぞれ

副校長 岩崎 公慈

黒門小の約束10

わたしたち黒門小の子どもは…

- ◆ 友達のことを隠したり壊したりしません。
- ◆ 友達に対して、「暴力（殴ったり蹴ったりなど）をふるいません。
- ◆ 友達をいやなあだ名や呼び捨てで呼びません。
- ◆ 友達の悪口を言いません。
- ◆ 友達のいやなうわさ話をしません。
- ◆ 友達のことを仲間はずれにしたり無視したりしません。
- ◆ 友達が嫌がる遊び方をしません。
- ◆ 友達の悪口などを書いたメモや手紙のやりとりをしません。
- ◆ 友達の失敗を責めたりからかったりしません。
- ◆ 仲間に入れず独りぼっちでいる友達は誘い合います。

6月は「ふれあい月間」でした。いじめや不登校、暴力などの問題行動を未然に防止し、子供たちの健全育成を目指して重点的に取組を行うこの期間に、本校では児童に示している「黒門小の約束10」がしっかりと守られているか、「友だちアンケート」を実施しています。

先日の児童朝会では、この「黒門小の約束10」を確認するとともに「いやなあだ名」「いやなうわさ話」「嫌がる遊び方」とはどのようなものだろうか、との問いかけをしました。

人は一人一人違います。どのようなことに喜びを感じ、どのようなことを嫌だと感じるかは人それぞれです。友達が自分と同じように感じるわけではありません。自分は「いやだ」と感じないことでも、人によってはいやだと思えるかもしれないと考える力を育てていくことが大切です。

また、いやだと感じたらそのことをしっかりと伝えていく方法を教える必要もあります。トラブルになったときに話を聴くと「前からいやだった」「ずっと我慢していた」と言う子がいます。そのことを相手に伝えると「いやがっているとは思わなかった」「いっしょに笑っていたので遊んでいるつもりだった」ということも多いです。関係している児童に話を聴くことで、それぞれの気持ちを確認したり、時に誤解であることに気付いたりすることができます。子供たちの様子や「友だちアンケート」の記述などから「気持ちのずれに早期に気づき、丁寧に対応していくこと」が有効だと考えています。

自分だけで解決できないことは助けを求めることも大切で、学校には担任をはじめ、話を聴いてくれる大人がたくさんいること、学校の外にも相談できるところがたくさんあることも折に触れて伝えていきます。

ふれあい月間では、道徳科の授業や学級活動などでいじめに関する授業を実施しました。いじめを事前に防止するための学習やいじめ問題に対応できる力を身に付ける学習、自己の生き方についての考えを深める学習など学年に応じた授業を通して、一人一人が大切にされ、お互いを認め合う関係を作り、いじめ見逃しゼロを目指します。本校の「学校いじめ防止基本方針」はホームページ <https://www.taito.ed.jp/swas/index.php?id=1310219> に掲載していますのでご覧ください。

登録の確認をお願いいたします

緊急時の連絡等に活用しています。不具合ある時には早めに問合せをしてください。

- ・「SumaMachi(スマまち)」 欠席・遅刻等の連絡、学校からの情報配信メール
(問合せ先) スマまちサポートセンター(03-6739-3009)
- ・「ツイタもん」 登下校状況配信、育ての会のお知らせ
(問合せ先) ツイタもん事務局(0120-833-214)